



2016年11月13日 (第175号)
発行所 カトリック高松司教区 広報委員会
〒760-0074 高松市桜町1-8-9
TEL 087-831-6659 FAX 087-833-1484
Email
教区: catholic-takamatsu@takamatsu.catholic.ne.jp
広報: tk-koho@mxi.netwave.or.jp
生涯養成: yousei@takamatsu.catholic.ne.jp
WEB://www.takamatsu.catholic.ne.jp/

カトリック高松教区報

マザーテレサの言葉
わたしたちのいうことは大切ではありません。
わたしたちを通して、神さまがおっしゃることが、大切なのです。



四国ドミニコ家族が集結 会設立800年 原点に返り新たな歩み

ドミニコ会(説教者会)設立800年を記念し祝うために、10月10日、松山市にある聖カタリナ・セミニャーハウスで、カナダ管区とロザリオ管区ドミニコ会、説教者隠修道女会、聖ドミニコ女子修道会、聖ドミニコ宣教師女会、聖ドミニコ信徒会、ロザリオ信心会のドミニコ家族130人が参集した。日本での家族が一党に合したは初めてで、800年という節目の年に聖ドミニコの原点に返り、そこから新たな歩みを決意した。午前には聖ドミニコ女子修道会のSr.ベネディクタ武田が「ドミニコ家族の祝にあたって」をテーマに講演を行った。(本面記事参照)続いて諏訪司教司式のもと、共同司式ミサで感謝を捧げた後、ドミニコ家族として食卓を囲み、聖歌等の出し物で盛り上げ、食事を楽しみながらお祝いの時を過ごした。

聖ドミニコ宣教師女会の中山紀美子シスターに会の模様を紹介してもらった。

説教者兄弟会(ドミニコ会)を認可して下さった教皇ホノリウス3世の継承者として時空を超えて、2016年10月10日、カトリック高松教区長諏訪榮治郎司教さまご列席のもとに、ドミニコカンファミーのご縁のある神父さま・シスター方・信徒の皆さんと聖カタリナ学園高等学校セミニャーハウスで集うことができました。

ドミニコカンファミーが一党に合する喜びのうちに、シスター・ベネディクタ武田のテーマ「ドミニコ家族の祝にあたって」の講演・ミサ・祝賀会を催すことができました。

この会に先立って、ドミニコ会の5つの修道会の代表(実行委員)の皆さんは、昨年8月から実務を担当し、この日のために1回、伊丹ロザリオ修道院に集まり、直前まで準備を重ねました。ジュビレを祝う集いを計画し、東日本では、7月18日(海の日)に東会場(カトリック渋谷教会)で、岡田武夫大司教さまに主司式をお願いしました。

西日本では、10月10日(体育の日)に四国会場(松山市北条聖カタリナ学

美しい街角で「地の塩・世の光」となれ



諏訪司教、記念ミサで励ましの言葉

さま・ドミニコ会(ロザリオ管区・カナダ管区)オブレイト会・スペイン外国宣教会の神父さま方16名も共同司式で参加されました。私たちにはたくさんの神父さまに支えられ、励まされ、助けられ、育てられ「いま」があります。

お祝いのパーティで談笑する参加者



そこには神父さまたちの希望の光があり、シスターたちのあたたかい笑顔があります。

聖父ドミニコが望まれたように、あわれみの母マリアのご保護のもとに、ドミニコカンファミーが一つになつて、「今日と明日の世界」に神さまのいつくしみをもたらすことができますように、心からお祈りしています。

ミサの中での司教さまの説教は、「地の塩・世の光」であり続けるようにとの励ましのお言葉とJR坂出駅の近くに「美しい街角」があるとの心あたたまるお話でした。

司教さまは「一つまみの塩でラーメンのおいしい味が付けが決まり、塩は姿を消して他のものを生かします」とおっしゃいました。塩はお料理の味付けに使われ、塩加減一つでおいしい味が決まります。それに塩は清めの意味があり、食物が腐らないように長く保存することができま



コーラスで盛り上げるシスターズ

なることをこの上なく喜ばれました。ブルーノ・カドレ総長さまもドミニコカンファミー全メンバーへのメッセージで「神のいつくしみを告げ知らせるミッションを中心にした、み言葉への奉仕を新たにしよう」との特

別な呼びかけをされました。世界各地で祝われるジュビレ年を機に、会の起源・歴史・伝統を思い起こし、ドミニコ会の先達が大切にしたことを大切にしたいと思ひます。神さまの呼びかけに心えた兄弟(姉妹)とともに生きる共同体に感謝し、世界のドミニコ会パワーを発揮し、福音宣教の新たな力強い一歩を踏み出したいと願ひます。

ドミニコ家族の祝にあたって

武田シスターの講演要旨

聖ドミニコの息吹、それを表現すると「修業はオーケストラのようです。」聖ドミニコの会は800年前に第一楽章が始まりました。その歴史は、日々新たな神の創造の中で、新しい楽章の展開です。「行って、福音を宣べ伝えなさい、すべての人の救いのために」。指揮者は聖ドミニコです。オーケストラはまだ終わっていません。この曲には前奏がありません。1206年6月、カタリ派異端に対する教皇勅使たちの活動の成果が上がらずそこに「ドミニコ」が加わりました。ドミニコはカタリ派の総本部の模様を呈していたファシオンヨアの教会の主任司祭になり、ここを本拠地として南仏一帯の宣教活動を繰り広げました。



ドミニコ会の歴史を解説する筆者

1220年5月、聖別され教養を持っていない場合、ミサをささげることが出来ないため、ドミニコは、どこでも、携用祭壇の上でミサを捧げようという画期的な許可を教皇から受け、教会のない辺境にまで進出して行くことが容易になりました。また、司教区ごとに定められていた典

1220年5月、聖別され教養を持っていない場合、ミサをささげることが出来ないため、ドミニコは、どこでも、携用祭壇の上でミサを捧げようという画期的な許可を教皇から受け、教会のない辺境にまで進出して行くことが容易になりました。また、司教区ごとに定められていた典

説教者ドミニコを生きること大切

1220年5月、聖別され教養を持っていない場合、ミサをささげることが出来ないため、ドミニコは、どこでも、携用祭壇の上でミサを捧げようという画期的な許可を教皇から受け、教会のない辺境にまで進出して行くことが容易になりました。また、司教区ごとに定められていた典

1220年5月、聖別され教養を持っていない場合、ミサをささげることが出来ないため、ドミニコは、どこでも、携用祭壇の上でミサを捧げようという画期的な許可を教皇から受け、教会のない辺境にまで進出して行くことが容易になりました。また、司教区ごとに定められていた典

はばたき

いつくしみの特別聖年は11月20日、王であるキリストの祭日に幕を閉じます。「いつくしみはとこしえに」(詩136)と繰り返されてきたように、歴史を通して旧約の時代、イエスの時代、そして現代に至るまで、人間は神のいつくしみを必要とし、いつくしみのうちに生かされています。

教会は、「神のいつくしみの泉へと人々を近づける」ために存在し、人々がその泉にやってくる、飲み、潤され、喜び、顔が輝く時こそ教会として真に生きていくということになるのでしよう。そのために、私たちの行う教会活動はどんなものでも、いつくしみと優しさで包まれたものでありたい。いつくしみの雰囲気づくり、というものが私たちに問われているのではないかと思ひます。

「神が人々に望んでいるのは、いつくしみ深くなり、他者をゆるして、受けた愛を無償で与えることです」と教皇様は話しておられます。

この聖年をきつかけに、これから生涯いつくしみを生きるために、愛とゆるしを身に着けるよう努めていきたいものです。

修道院紹介

聖マリア修道院

小豆島修道院

海辺の景勝地で神を賛美



修道院ルルドの前にて

私たちが小豆島修道院の歩みは、昭和47年に小豆郡で最初に開設された特別養護老人ホーム「マリアの園」と切り離すことはできません。

時代の要請、内海町元町長・川北さまの老人福祉に対する熱意が動かされてホームを開設することになり、故岩永千一神父さまの働きかけによって、聖マリア修道院が開設されました。

前方には因海灣が一望のもとに開け、後方は見事な岩山を頂くすばらしい景勝の地にホームと修道院が並んで建っています。

現在7名のシスターが共同生活していますが、朝夕の祈りの時、ご聖体を見つめながら毎日小鳥の声を聴き、聖堂の左側には、キジが歩いている姿も見受けられ、右側には、草壁港から出発するフェリーの汽笛

『聖歌は祈り』指導続けて57年

松山教会 蔵田 五十憲さん (78歳)



『松山教会で聖歌の指導を始めてから57年になるんですよ』。淡々と語る蔵田五十憲さんの言葉に驚いた。半世紀以上にわたって、ミサ・

高松まで行って作曲家の高田三郎さんから新しい聖歌の歌い方など厳しい指導を受けた。松山教会は四国で信徒数の最も多い教会だけに、蔵田さんは多くの方が声をそろえて歌えるように気を配ってきた。広い聖堂のすべての人が心を一つにできるように時には前に出て指揮をする。

白浜広島教区新司教が叙階 2000人が集い祈り祝う



教区長を示すバクルスを前田大司教から受け取る白浜新司教

列島が台風10号に襲われた9月19日、広島教区の新司教叙階式が行われた。式には、千人を超える参列者が世界平和記念聖堂に集い、感謝の祈りと喜びに満ちた時を共有した。

主司式は2014年8月まで広島教区司教だった前田万葉大司教(大阪教区)が、白浜新司教(叙階式)の中で、司教座に着き、第四代広島教区司教として正式に就任した。来賓として、駐

高松教区でも今後、「電話相談窓口」を設置し、調査・救済を担う弁護士の「第三者機関」(大阪教区内に既存)を踏まえて「第三者機関」(大阪教区内に既存)の設置に向けて一歩を踏み出すことになりました。

『典礼奉仕』のために (26)

典礼ひとくち解説 その3 「感謝の典礼、一致の姿」

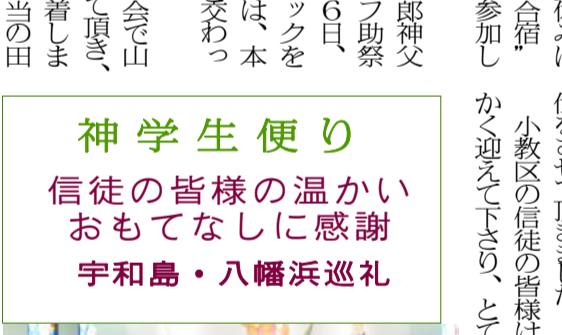
高松教区典礼委員長 谷口広海



新しい「ローマ・ミサ典書(総論)」に基づく変更箇所が昨年11月29日から施行されてそろそろ1年が経とうとしています。それにもかかわらずミサの責任と影響力には大きなものがあります。

神学生便り

信徒の皆様の温かいおもてなしに感謝 宇和島・八幡浜巡礼



左2人目:ヨゼフ助祭 その右:高山新学生

神学生は、毎年夏休みには教区内で、「神学生合宿」というプログラムに参加します。

店まで馳走になりました。そこで分かち合いでは、私達神学生を励まして下さるお気持ちを感じ、胸が一杯になりました。2日目は、八幡浜教会に向かいました。田中神父様は、短い合宿ながら、豊かな交わりの時間でした。また、高松教区内の実に広い地域の皆様が色々な面で教区を盛り立てて下さっていることに感謝しました。

性的虐待から女性と子どもを守る 高松教区でも対応へ 教会内の子どもと女性への性的虐待(セクシュアルハラスメント)に対応するデスクを設置する準備を進めています。

特集

感動的な講話、分かち合い
〈桜町で女性の会大会〉
静かな祈り、親睦深める

曾我部委員長の挨拶

皆様こんにちは。一年ぶりに皆様にお会い出来、神に感謝です。

女性の会大会は本日、第8回を迎えました。けれども女性の会って何、とかどうしてできたのか、日力連はこうなったのか、などの疑問に答えるために、この機会に高松教区における女性信徒の歩みを、預かった古い書類を参照して、ご説明しようと思います。

1994年に高松教区女性連合として、日力連(日本カトリック女性団体連盟)に加盟しました。

2004年に溝部司教様が着座された頃、司教様は小教区は閉鎖的、個人主義的で、一部の人の活動で小教区間の交流も少なかったように感じられたようです。

このような四国の教会の現状を憂慮されて、2007年に教区女性連合を再編成されます。そのため日力



男性も参加し、和気あいの大会となった女性の会

連加盟は一旦休止とし、各会を動かして行くことが、県から女性の代表者を選び、今開いておりますこの会の発足を呼びかけられたので

聖母に倣い行動できますように

準備段階として、高松で各県の代表者の集まりを持ちながら、各県でも女性の集まりを開き、Sr・ギリスの指導のもと、教会における女性の役割というテーマ

で、考える場を作られました。その後、2008年12月に「女性の視点から教会を考える委員会」(通称女性の会)がSr・高松を委員長として発足しました。



女性の会々々員たちに挨拶する曾我部委員長

2009年には当校町で、第1回大会が開かれました。ただ講演会を開くのが目的ではなく、教会は本場として

これだけのだろうか、どうすればいいのだろうか、と考えるためでした。女性だけが持っている特別な感性とか母性から、教

9月10日の女性の会大会に、四国中から女性達が集まった。いや女性ばかりではない、男性も参加した。宇和島から朝早く家を出て参加した人もいる。心待ちにしていたのか、30分前にはほとんど集まっていた。

開会を前倒しして5分前の10時25分に始まった。笑顔の祭典の始まりだった。力強いあめさきさきの聖歌が響いた。松永神父の導きの祈り、司教と委員長の挨拶(後に掲載)に続き、いよいよ村上神父の講話。参加者には予め配布された読んできていた、フランシスコ教皇著「いつくしみの教会」の中の「聖母に倣っ

た。午後には聖堂に移動し、テゼの祈りで、静かな祈りの雰囲気はいやましたように感じられた。そのまま、祈りの形式で、分かち合いの発表が行われた(後に掲載)。そして松浦神父様の閉会のご挨拶の後、集合写真を撮って和気藹々の中、来年の再会を約しつつ帰路についた。

それはこの会が日力連に加盟する形ができたと思われたからでしょう。日力連は、日本各地のカトリック女性信徒の団体が任意に集まったものです。それは世界に繋がっていて(世力連)、日本の教会の動向や、パパ様からのメッセージをいち早く女性たちに知らせ、大きな視野から教会を、さらに社会を考えています。

宗教を超えた活動や、祈りを通して、パパ様の「出向いて行きなさい」の呼びかけに、マリア様のように素早く答える素晴らしい団体です。

日力連加入も検討

今の私達の会としては、四国内が精一杯の表情で、加盟休止のままです。組織として、2泊3日で全国会議に代表を送ることになり

ますが、今後は、考えていられる1年ほど前に、もう日力連に入ってもいいのでは

と、私におっしゃいました。時を経て、小教区間の交

「神の心を聴こう」10班から発表

◇1班の祈り

シレネのシモンが十字架を担ったように、私たちの日々の生活の中にも強制された恵みがあることを知りました。その中で、聖霊の助けを借りながら、自由意志をもって、神のみ旨にかなう行動を選択することができ

◇2班の祈り

聴くことは待つこと。熟慮すること。神の言葉は、あらうーと思ったときに入ります。何んてーと思うときは多いけれど、何か意味があります。毎日の生活の中で忍耐強く聞けます

◇3班の祈り

女性としての聖母マリア様の、人々と教会に与えて下さった大きな恵みに、今日のテーマ「聖母に倣って」と題して分かち合い、沢山の心のひびきに目覚めさせて下さった事に心から感謝いたします。

浴衣で日本文化体験

坂出教会でヴェトナムデー

10月9日は3連休2日目、雨上がりの爽やかな1日となり、坂出教会で「ベトナムデー」と銘打ち、近隣の

参加者全員で輪になって触れ合う



最初の集いにもかかわらず大勢が参集する

つげ、実現の運びとなった。集いの第一部は午後7時

子どもたちに豊かな信仰生活を

◇4班の祈り

日々の生活の中で女性としての、周りの人々の心の声を聞き取り、今何をすべきかを決め、行動することの大切さを悟らせた今日の集いに参加させていたただいたことに感謝いたします。

◇5班の祈り

次きを願う時、特に臨終の時、「女旨のままに」と言葉が出ますように。これからは相手の立場をわきまへ、みことばを聞くことの出来ない周りの人々に、わたしたちが潔い行いをもってマリア様の聖徳に倣うことが出来ようように、この3グループの分かち合いをお祈り致します。

◇6班の祈り

祈りを聞いて下さるマリアよ、頼まれて下さるマリアよ、行くべき道を整えて下さるマリアよ、どんな時も落ち着いておられるマリアよ、あなたのように耳を澄ませて聞き、聞いたことを責任をもって守り、最上の業に生きることを決心します。

◇7班の祈り

父なる神よ、私たちが母マリアのように、聖霊の働きから始まり、浴衣を着た女性にこやかに扇をゆらめかせながらの踊りや、ヴェトナム語の聖歌、3年の研修期間を終えて、近く帰国することになった数人の若者による感謝の言葉、最後に全員輪になってのダンスで交わりを深めた。

◇8班の祈り

私たちに与えられた十字架を輝かせながら希望をもって担って行きますように。

◇9班の祈り

私たちが出来事や言葉に出会いますが、その奥にある神様の思いを見出し、それを言葉と行動に表せよう。

◇10班の祈り

私たちは神の声を聴き、自分の中にとどめます。人の話の中にも、神の言葉を聞き、それを伝えられよう。

神の言葉に従って行動をする時、自分を知らず、それを穏やかな安心した心で生きることが出来よう。

教区スケジュール

Table with 2 columns: Date and Event. Includes dates from 11月1日 to 12月30日 with various religious events and feast days.

TSC便り

「カリタス米川ベース」運営 大阪教会管区が東日本大震災支援で

2011年3月11日に発生した東日本大震災を受けて、大阪教会管区として一つにまとまり被災地の支援を行ってまいりました。

特に岩手県大船渡市に拠点ベースを立ち上げ大船渡市・陸前高田市の支援に力をいれてまいりました。



支援初期にベースを置いていた米川教会

高齢化の中で活動する道後教会

受洗者の増加 大きな喜び 信徒たち入門講座を担当



昨年12月8日に開幕した「いつくしみの特別聖年」の間もなく終わろうとしています。



道後教会

宣教を掲げ、「地域」に「日曜喫茶室」をオープンし、ミサ後の信徒の交流の場となっています。



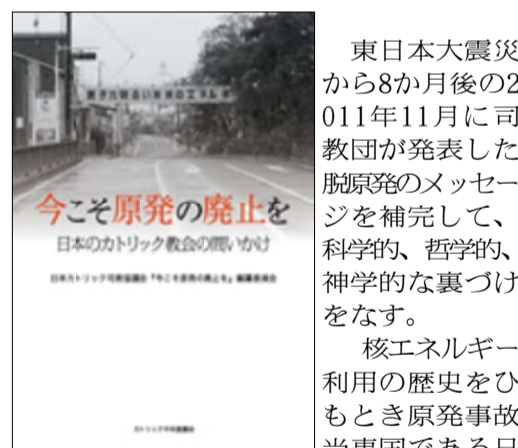
霊性センターC棟 三本松教会

聖書勉強会に参加するようにもすすめております。毎週、火曜日には教会の事務局会議を開催し、教会の全体的な課題・企画、作業、反省等を行い、実働的役割を果たしています。

道後教会も、信徒の高齢化が進んでおりますが、70歳代の壮年会の皆様も活躍しております。高齢化が進む中でも悲観することなく、永い教会活動と信仰生活、そして多くの経験と知識をもった高齢の皆様は、道後教会の宝です。

新刊書籍紹介

『今こそ原発の廃止を』 日本のカトリック教会の問いかけ



東日本大震災から8か月後の2011年11月に司教団が発表した脱原発のメッセージを補完して、科学的、哲学的、神学的な裏づけをなす。

判型: A5 ページ数: 288 本体価格: 1800円 日本カトリック司教協議会編纂委員会編

「マイバイブルII」み言葉の宝石箱



カトリック教会は今、いつくしみの特別聖年を祝っています。各地の指定聖堂への巡礼と共に、聖書を読み、秘跡に与(あずか)り、いつくしみ深い神様の救いの業を知り、ながめられ語りじっくり味わい合います。

この本の出版はわたしたちにとって、本当にタイムリーなできごとです。今、真理と愛、そして本物の生き方を心から求めている多くの人々が聖書を手に取り、読み、味わい、いのちの言葉によって生きるようになることを心から願っています。

Advertisement for '聖ドミニコ宣教修道女会' (Sisterhood of St. Dominic) with text '神を觀想し、その実りを人々に伝えよ'.

Advertisement for '暁の星学園' (Akatsuki no Hoshigakuen) with text '私たちは、自分を創造しようとするこどもをまなび、護りましょう'.

Advertisement for '編集後記' (Editorial Afterword) with text '暑かった夏から秋が深まる11月、「神のいつくしみの特別聖年」が閉幕を迎えようとしています'.